

東ティモール報告④第3日目 2010年8月31日（火）（熊谷明史）

8月31日 マウベシからロビボに移動

午前6時半頃起床。

周囲を山々に囲まれたマウベシの夜明けは遅く、空は青く澄み切ってはいるがまだ太陽の光が届かぬ薄明の朝だ。

午前7時。

ポサダホテルのとても素敵なバラ園の回廊から東の山に上る日の出をおがむ。

ディリのかんかん照りの熱さと人々の喧噪渦巻く朝に比べ、冷涼で静寂な高原の朝だ。



マウベシ

Hotel Pousada ポルトガル時代に避暑用として建てられたホテル。おしゃれで前庭のバラ園の花々が美しい。



我々の宿泊した部屋



マウベシで一番大きい教会。
とても美しい眺めだ。教会の
鐘の音がマウベシの村に時
を告げる。

マウベシの早朝は事前に聞いてはいたがかなり冷え込む。ベッドの上掛けは薄い毛布1枚のみだったのでパンツ一丁では寒い（寒がりです）。八木田さんはジャージの上下を持ってきた。さすがだ。

朝のシャワーは給水車からの給水がないと浴びられない。

午前7時半頃。給水車から給水あり。お湯なし。水のシャワーは浴びるだけ。

部屋によっては二人目に浴びた人はお湯が出たらしい。

午前8時。

ホテルのダイニングルームで朝食。

メニューはパンとコーヒー、ティー、マーガリンとは記載されているがよく分からないバターもどきとインドネシア産の瓶入りジャム、スライスチーズ。マウベシで朝飲むコーヒーはそれだけでまさに格別のマウベシコーヒーであった。



ホテルのダイニングルー
ム。清潔で明るい。

午前8時40分ポサダホテル出発。すぐその PARCIC マウベシ事務所へ移動。マウベシマーケット見学。買い物。昨日見学したディリのマーケットに比べればとても小さいが一通りのものはそろっていた。ミカンを購入。(このミカンはとてもおいしく味は日本のみかんと変わらず。購入をお勧めします) マーケットの主人はほとんどがおばあちゃん連中だ。例のベテルを口の中でくちやくちやしている。みんな前歯が少ない。入れ歯はもちろんないと思う。PARCIC の現場スタッフの栗栖さん、伊藤（文）さんたちは、村で食べる我々の食料を買い出ししていた。



マウベシの PARCIC 事務所
前



マウベシの市場

午前10時50分。
事務所で簡単な打ち合わせを行った後にいよいよロビボ村に出発。
2台の屈強なピックアップ車（どちらも日本車）に分乗。やや高齢である荒井、八木田、熊谷、小鳥居は座席に座らせてもらったが気持ちの若い越田は果敢にも有理ほか若者たちと一緒に荷台に乗車した。

出発時のマウベシ 吹く風冷たし、日差しがつよく空は快晴。
道中は聞きしに勝るくねくねとした山道であったがさすがに幹線道路と言うだけありほぼ舗装道路だった。もちろん、随所にあなぼこあり、スピード出せず、すれ違いもきわどいのが結構あったがぎりぎりセーフ状態。カーブミラーがないのでクラクションを鳴らしながらの道中。運転手は若いジョン君であったがとても上手に運転してくれた。車に酔った人なし。事前に酔い止めを飲んでいたら有りはかなり眠くなっただけらしい。まさに the long and winding road であった。



ピックアップの荷台に乗った有
理と越田さん。



photo@Yuuri Kumagai